

オリンピックイヤーで盛り上がる日本のバスケットボール界。
そんな中、我長野県も夫々の部門の皆様のご尽力により遅々たりとは申せ着実な歩みを進めていると自負しているところであります。

それらの活躍の一端を挙げさせていただきますと、先ず B リーグの信州ブレイブウォリアーズの B2 リーグでの快進撃、文字通りチームとブースターが一体となって勝ち進む勇姿は正に信州軍の心意気を示すものであります。

現在の勢いをそのままに恐らく来るべきシーズンは B1 のステージで大あばれしてくれるものと大きな期待を寄せるものであります。

一方、2027 年開催予定の「第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会」に向けての取り組みは、県競技力向上対策本部（本部長阿部県知事）とタイアップしながら進めるわけですが、成年男子種別が福井国体で全国第 3 位、茨城国体で第 5 位と入賞を続けてきております。ここを核として全種別の強化を図ってまいります。

又、障害者スポーツ大会に向けては、FID・車椅子バスケットボールを両輪として、より多くの障害をもつ方がスポーツに参加出来る環境を整えてまいります。

選手育成関係ではアンダーカテゴリーの U15 部会がいち早く JBA の年代別の技術向上を目指すリーグ戦の導入に踏み出していただきました。

試合数の増加に伴い、役員先生方のご負担は想像を絶するものですが、皆さん方の情熱で乗り切っていただいたところです。

U12 部会でも、これまでのミニバスケットボール連盟からのスライドとなったわけですが、役員皆さん方の理解とご協力でスタートが切れました。

次年度は U18 部会のリーグ戦を如何にして実現を図るか、新たな挑戦をお願いするところであります。

又、審判委員会においては大勢の若手審判員の熱いチャレンジがめざましく、S 級・A 級の上級をはじめとするライセンス獲得と質の向上に励んで来ております。

近未来の競技力向上の鍵を握る指導者養成面では技術委員会、ユース育成委員会、指導者育成委員会、スポーツ医科学委員会が連携を密に取りながら、指導者ライセンス取得、資質向上に向けた講習会を年間を通して数多く開講して来ております。

もう一方で大きな難問に直面しているのも事実でございます。
それは、少子化に伴う競技人口の減少即ち、登録（個人・チーム）の激減であります。
この喫緊の課題につきましては、引き続き協会あげて取り組んでまいります。いずれにいたしましても、県内愛好者全ての皆様のご理解、ご協力なくして成し得ません。
伏してお願い申し上げますと共に、所感を申し述べ、ご挨拶といたします。